

令和元年第3回栗原市議会定例会 一般質問【個人質問】 通告表

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
1	3番 澤 邊 幸 浩	1 栗原市における 障害者雇用につ いて	<p>1 昨年度より障害者雇用促進法が改正され、現在、企業が2.2%、国や自治体が2.5%、教育委員会が2.4%の雇用が義務付けられている。栗原市内の民間企業における障害者実雇用率が、現状にて2.21%と高い雇用水準を保っている中で、栗原市並びに栗原市教育委員会における障害者雇用の現状を伺う。</p> <p>(1) 現在の市並びに市教育委員会における障害者雇用の実人数と雇用率を伺う。</p> <p>(2) 昨年度の障害者雇用促進法の改正により、従来の知的・身体障害者に加え、新たにそううつ病や統合失調症などの精神障害者も雇用義務の対象となったが、市並びに市教育委員会において、精神障害者の雇用の現状を伺う。</p> <p>(3) 今後、市並びに市教育委員会として、障害者雇用促進の観点からどのような取り組みがなされていくか。</p> <p>(4) 市並びに市教育委員会として、障害者雇用率の向上を図るため、民間企業との情報交換等どのように考えているのか。また、障害者の民間企業への就業支援等はどのように実施しているのか。</p>
		2 市立病院等の経 営運営・管理につ いて	<p>1 8月20日に開催された栗原市立病院経営評価委員会において、その提言として病院経営を取り巻く環境はますます厳しくなっている。自治体病院として今後も維持・継続していくために、病床数の適正化や各病院・診療所の機能分担について検討が必要と、市民に向けてもその現状が示されていたが、改めて自治体病院としての病院経営について伺う。</p> <p>(1) 提言の中で、病床数の適正化とあるが、市立病院事業者として何床が適正と考えているのか。また、病床数を適正としたことにより、どのように経営が改善していくのか、その方向性を示していただきたい。</p> <p>(2) 栗原市立病院経営評価委員会においても、委員から病院経営のダウンサイズの取り組みよりも、3病院、4診療所の明確な機能分担を進めることが必要と提言されたが、この機能分担についての見解を伺う。</p> <p>(3) 今後、民間医療事業者や、介護事業者との密接な連携や事業運営の協力体制が必要不可欠と思われるが、その連携や協力体制についてどのように考えているか伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
		3 指定廃棄物の最終処分等について	<p>1 8月27日に栗原市議会指定廃棄物の最終処分等に関する調査特別委員会が開催され、農林振興部より経過報告と今後について報告がなされた。このことにより次の点について伺う。</p> <p>(1) 堆肥化処理施設候補地選定について、これまでの調査箇所と今後の調査予定箇所を含めて、市有地、民有地、その他を合わせて14箇所となる予定との報告であるが、今後の調査予定箇所の調査終了がいつになるのか。また、その後の堆肥化処理施設の最終候補地選定スケジュールを伺う。</p> <p>(2) 現在、栗原市として指定廃棄物の最終処分等については、堆肥化処理として進めているが、堆肥化処理施設の設置が困難を極めた場合、堆肥化処理以外の選択肢は考えているのか伺う。</p>
2	25番 阿部 貞光	1 栗原ハーフマラソン公認コースのフル活用を	<p>1 栗原ハーフマラソン公認コースは、平成24年からは全国高校駅伝宮城県予選の会場としても活用され、さらに今年は宮城県中学校駅伝競走大会が開催されるなど、フル活用されることになる。市内に多くの方々がお越しいただくことで、栗原市の魅力をPRできることや経済効果にも期待できるものと考えられる。そこで次の点について伺う。</p> <p>(1) 第5回栗原ハーフマラソン大会の募集が9月6日で終了しているが、種目別、申込数は(市内、市外、県外)。</p> <p>(2) 大会開催による経済効果と市の負担はどうか伺う(3大会)。</p> <p>(3) 全国高校駅伝宮城県予選は、東日本大震災により被災を受けた亘理町から栗原市での開催となっている。当時は、10年間は栗原市での説明であったが、現状はどうか伺う。</p>
		2 どう変わる幼児教育、児童支援	<p>1 子ども・子育て支援法の一部を改正する法律が令和元年5月10日成立し、10月1日施行される。消費税増税による社会保障確保による幼児教育無償化の取り組みである。本市としても、子育て世代の支援は重要な課題であり、出生数を増やすためにも、産み育てる環境作りは欠かすことのできない施策である。次の点について伺う。</p> <p>(1) 3歳～5歳までは、幼稚園、保育所等の利用料は無償化するとしているが、市内公立・私立幼稚園、保育所等すべて支援となるか伺う。また、幼稚園、保育所等では、利用時間に違いがあるが、すべて無償化されるか。併せて、対象児童、園児数は。</p> <p>(2) 0歳～2歳までの利用料は、住民税非課税世帯を対象とし無償化されるが、対象世帯数と園児数を伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(3) 今回の法改正により、子どものための教育・保育給付から、子育てのための施設等利用給付に替わるが、園児 1 人当たり換算するとどうか。また、市の歳入はどうか。前制度と比較した額についても伺う。</p> <p>(4) 認定区分(支給要件)はどうか。また、区分毎の園児数も伺う。</p> <p>(5) 給付に要する費用は、今年に限り全額国費で補填するとされている。原則市町村が 4 分の 1 を負担することになるが、どの程度の額となるか。また、前制度と比較してどうか。あわせて、12 月 28 日関係閣僚合意では、公立施設は市町村等は 10 割(全額)負担とされているが、現状は。</p> <p>(6) 教材費、給食費はこれまでどおり保護者負担とされているが、それぞれの負担額はどの程度か。また、給食費が免除となる世帯数と条件、園児数はどうか。</p> <p>(7) 栗原市は、これまで若者定住をはじめ、子育てや保護者負担軽減等、産み育てやすい環境作りに努めてきたところである。法改正により施策の一部が拡充された今、市としての施策の拡充を求めるがどうか伺う。</p> <p>(8) 栗原市子ども・子育て支援事業計画について、本年は見直し、第 2 次計画の策定の年となるが、これまでの施策の成果、課題は。次期計画策定へどう生かすか。策定状況も伺う。 また、2018 年 9 月公表の新・放課後子ども総合プランでは、放課後児童クラブの待機児童解消が掲げられ、量の見込みの算出等の考え方が示されているが、市放課後児童クラブの現状と算出等の違いによる量の見込みはどうか伺う。</p>
		3 市長選挙公約の実現に向けた取組状況について	1 選挙から 2 年半が過ぎようとしている現在、公約の実現状況を大綱・細目毎に伺う。現在進めているものがあれば、スケジュール、進捗状況も伺う。また、多くの市民が市長の公約実現に期待していると考えられる。取り組み状況、スケジュール、進捗率等の公表を求めるがどうか。
3	19 番 相 馬 勝 義	1 金成地区萩野診療所の位置づけについて	<p>1 萩野診療所として使用している現在の建物は、築 60 年を越えており、老朽化が想像以上で建物自体が少し傾いているほか、待合室や診療室の壁はあちこちにひび割れが入っている状態である。聞くところによると開設当時、公設民営で始まったが、現在は市が年額 23 万円で賃貸借しているようである。このことから、次の点について伺う。</p> <p>(1) 萩野診療所は、開設当時は公設民営であったはずだが、現在はどのような運営形態となっているのか。また、栗原の地域医療体制における萩野診療所の位置づけについて伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(2) 建物は賃貸借を行っているが、建物自体の傾きや壁のひび割れが見受けられ、診療を受ける患者は一樣に不安を感じている。早急に他の場所への新築あるいは萩野地区にある公共施設を有効活用し、危険な状況を一刻も早く解消すべきと思うが、市長の見解を伺う。</p> <p>(3) 医師不足で大変な状況下にあつて、診療所存続は地域の方々、特に高齢者にとっては切実な願いであると思う。地域の医療体制を守ることは、市民の命を守ることである。診療所存続に向けて市長の見解を伺う。</p>
		2 (仮称)栗原東大橋橋梁整備事業について	<p>2 既に一部用地買収や家屋等補償が進んでいるところであるが、現地においては事業が進んでいるように見えていない。地区の住民からは、未だ劣化した危険なもぐり橋を通過しているため、早期完工が望まれ、本当にいつできるのか心配している声を多数聞いている。そこで、次の点について伺う。</p> <p>(1) 現時点の事業進捗状況はどのようになっているのか。</p> <p>(2) 用地買収や補償の契約状況はどのようになっているのか。</p> <p>(3) 軟弱地盤と聞くと、当初設計からどのように変更するのか。</p> <p>(4) 事業完了年度はいつごろ予定しているのか。</p>
		3 花山ダム堆積土砂撤去について	<p>1 花山ダムの有効な貯水確保と防災の観点からダムの堆積土砂を早期に撤去すべきと考える。現在、国では3年間で7兆円もの国土強靱化事業を行っている。これにより、早急に土砂撤去を行わなければ、すぐには出来かねると思う。早急に、国や県への働きかけを行うべきと思うが如何なものか伺う。</p>
4	13番 沼倉 猛	1 農業政策について	<p>1 平成30年度から農業者戸別所得補償制度が廃止になった。この制度は農家の所得補償制度であり、廃止によって農業者及び地域は大きな打撃を受けるが、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 農業者戸別所得補償制度が実施されていた平成25年度に栗原市の農家に支給されていた交付金額はいくらで、農家数は何戸だったか。</p> <p>(2) 「コメの直接支払交付金」制度は、平成22年度に農家経営の安定化を目的として水田10アールあたり15,000円を支給する制度として発足した制度であり、水田農業者であれば経営の大小にかかわらず、戸別の農業者の所得を補償する画期的な制度であったが、どう評価しているか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(3) 農業者戸別所得補償制度をバラマキ農政や過保護農政と批判する人々がいるが、これについてどう思うか。</p> <p>(4) 地域における農家、農業者の減少は地域の衰退に必ずつながる。農業者が減少すれば少人数で効率の良い大規模で経営すればよいという議論があるがどう思うか。</p> <p>(5) 本年から国連家族農業年が始まっている。輸出偏重や大規模化、企業的農業を推進してきた世界の農政が家族農業の危機を広げ、貧困や格差、飢餓を拡大していることへの反省からであるが、国の具体的な施策は見えないままだ。農業を主産業としている栗原の市長として、国に具体的施策を求めるべきではないか。</p> <p>(6) 東北は日本の食料基地と言われる。東北 6 県では 3 年前の参議院選挙は野党統一候補の 5 勝 1 敗、今回の参議院選挙でも野党統一候補の 4 勝 2 敗と与党を圧倒している。現在の農業政策に対する不満の表れとみるが、市長はどう思うか。</p> <p>(7) 農業者戸別所得補償制度は、米・麦・大豆などの主要農産物の販売価格が生産費を恒常的に下回っている作物についてその差額を交付する所得補償制度である。栗原市の市長として、国に対して復活と拡充を強く求めていただきたいが如何か。</p>
		2 小学校周辺のブロック塀の撤去・改修状況について	<p>1 本年 4 月、県は小学校周辺ブロック塀の撤去・改修の必要な個所を公表した。栗原市は要改修 55 カ所、要解体が 9 カ所になっている。以下の点について伺う。</p> <p>(1) 県の公表は 2018 年の大阪府北部地震時に女児がブロック塀の下敷きになった事故をうけての調査だが、調査以降で栗原市での危険ブロックの撤去などの対応はあったか。</p> <p>(2) 今回の調査は小学校周辺となっているが、中学校周辺の調査は行っているのか。</p>
		3 地域拠点整備について	<p>1 平成 30 年 2 月議会において、高清水地区新町交差点西側のある J R の土地を購入し地域の拠点として整備すると共に歩道の新設整備を提案しているが、その後の経緯をお聞きする。</p> <p>(1) J R との土地購買交渉の結果はどうだったのか。</p> <p>(2) 歩道整備はどうなっているか。</p> <p>(3) 高清水地区の地域拠点としての整備の考えはあるのか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
		4 旧高清水中学校跡地利用について	<p>1 旧高清水中学校の跡地利用については地域住民の間では非常に関心が高く、地域住民の交流の場として利用できるようにして欲しいとの声が強い。以下の点について伺う。</p> <p>(1) 行政として地域振興の立場からの跡地利用計画はあるか。</p> <p>(2) 地域住民の意見を聞く機会を持ったのか。</p>
5	7番 高橋勝男	<p>1 栗原市の水道事業の現状と課題について</p> <p>2 学校再編計画の総括について</p>	<p>1 栗原市の水道事業経営は、2017年データによると、経常収支比率は103.87%と比較的良好であるが、将来の経営収支の見通しはどうか。また、一方では、水道料金の回収率が87.6%と県内でも低位となっている。原因と対策について伺う。</p> <p>2 栗原市の水道使用料金は県内では最も高くなっているが、今後の水道料金についての将来見通しをどのように考えているのか。</p> <p>3 栗原市の有形固定資産減価償却率は、32.24%と同規模の自治体と比較しても低い傾向にあるが、大きな原因と将来見通しについて伺う。</p> <p>4 40年を超える管路の更新計画と必要財源額の見通しについて伺う。</p> <p>5 今年の1月に設置された「宮城県水道事業広域連携検討委員会」の役割は何か。また、これまでの広域連携は、「圏域ごとに検討」とされていたが、今後は「宮城県水道事業広域連携検討委員会」で検討していくのか。</p> <p>6 県は「広域連携」と「みやぎ型管理運営方式」のすみわけについてどう考えているのか。</p> <p>7 経営基盤強化の一つとして、近隣自治体との事業連携や施設の共同所有などにより効率化を図ることも必要と考えるがどうか。</p> <p>8 市長は、県が進める「みやぎ型管理運営方式」「広域連携」をどのように考えているのか。</p> <p>1 平成20年度から進められてきた栗原市立学校再編計画が令和元年度で終了するが、学校再編した学校の成果と課題、また、市内小中学校全体のあり方について今後の課題と対応を伺う。</p> <p>2 金成地区は、平成26年度から金成小中一貫校としてスタートしているが、教育委員会としてどう評価しているのか伺う。また、後期計画では、小中一貫教育校の創設を検討するとなっているが、どのように検討されてきたのか。</p> <p>3 2017年12月議会で中高一貫教育校の創設について質問をしているが、それ以降の状況について伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			4 栗原市には、市政だよりを始めそれぞれの機関で広報活動が行われている。教育現場では、不登校やいじめ問題など多くの問題を抱えていると思うが、市民の方々にも教育に関心を持ってもらい共に考えるという観点からも、教育委員会の広報紙が必要と考えるが教育長の考えは如何に。
		3 イノシシの捕獲体制の強化を	1 栗原市の鳥獣対策は、電気柵などの設置にかかる費用や狩猟免許取得・更新にかかる費用の一部を補助する制度と栗原市野生鳥獣対策実施隊の結成による鳥獣対策を進めてきているが、以下の点について質問をする。 (1) 狩猟免許取得・更新や電気柵設置への助成を行っているが、各々の助成件数と成果について伺う。 (2) 電気柵設置助成は、一度助成を受けると二度目の助成は受けられないということが言われているが、改めて内容について確認をする。 (3) 捕獲圧維持、強化対策として、地域一体となった被害防止対策や狩猟免許取得者の技術の向上を図るための講習会や講演会の開催などの検討も必要であると考えが如何に。また、その為の手段として、農林水産省で認定している農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー制度の活用を検討すべきと考えが如何に。 (4) 栗原市職員の中でも、狩猟免許を取得している人がいる。有効的に活躍して頂くための対応について、検討すべきではないか。
6	11番 高橋 渉	1 空き店舗バンク制度の構築と活用について	1 「空家バンク制度」は、若者定住事業や遠距離通勤支援、婚活支援事業と並び栗原の人口減少に歯止めをかける事業であることから、一層の推進を期待するものであるが、しかし、現状としては必ずしも十分な成果が挙げられていないのではないかと思います。その一つの原因としては単なる情報の提供だけにとどまっており、売り手と買い手の仲介までに関与していないことである。 一方、商店街における空店舗も増加しており、虫食い状態が散見される。栗原市の基礎体力の低下を招くものであり、早急な対策が望まれる。この状況の打開策の一つとして、「空き店舗バンク制度」を作るべきと提案する。以上の観点から質問する。 (1) 「空家バンク制度」の実績と効果は。 (2) 空家バンク登録物件以外の一般的な空家も問題となっている。現在、市内の空家の数は把握しているか。

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(3) 空家バンクを利用して移住した世帯数、人数は。</p> <p>(4) 「空き店舗バンク制度」を作ることを提案するかどうか。</p>
		2 市有財産の利活用について	<p>1 市有財産、特に閉校した学校施設の利用活用について、一向に処理がはかどっていないように見受けられる。当然のことながら、建物も老朽化が進み、放っておいても雨漏りや破損となれば維持・管理費の経費が増加する。遊休施設の対処については、再活用すると同時に他の方法、すなわち賃貸や売却、また、一步踏み込んで解体も視野に入れることを進めるべきと考える。以上の観点から質問する。</p> <p>(1) 遊休施設の売却や賃貸について、情報発信はどのような方法で行っているのか。</p> <p>(2) 現在、売却や賃貸についての問い合わせはあるのか。</p> <p>(3) 売却や賃貸については、あくまで市が想定する価格にこだわっているのか。それとも柔軟に対応しているのか。</p> <p>(4) 遊休施設の年間の維持管理費支出額はどうか。</p>
7	15番 佐藤 悟	1 雇用・労働政策	<p>1 新規高等学校卒業生、中途退職者の雇用について。</p> <p>(1) 今年度の関係機関、団体、企業、高等学校等連携した就職支援事業はどう行うのか。</p> <p>(2) 中途退職者の就職支援策はどうか。</p> <p>2 人事院勧告について。人事院は国家公務員に関し、令和元年8月7日、月例給0.09%、一時金0.05月、住宅手当を引き上げる勧告を行った。</p> <p>(1) 市の「人事院勧告」に対する基本姿勢を伺う。</p> <p>(2) 2019年度市職員の給与・期末勤勉手当等の引き上げは、どう行うのか。</p> <p>(3) 再任用職員の月例給及び期末勤勉手当等の引き上げは、どう行うのか。</p> <p>(4) 臨時・非常勤職員の夏季休暇が認められたが、どう実施するのか。</p> <p>(5) 市職員労働組合との協議はどうか。</p> <p>3 「会計年度任用職員」について。地方公務員法改正が行われ、会計年度任用職員は、2020年4月施行となる。</p> <p>(1) 任用・労働条件（給料・手当・休暇等）などの条件整備は、どう行われるのか。</p> <p>(2) 任用・労働条件は、県内の他市町との比較ではどうか。</p> <p>(3) 市職員労働組合との協議は、どう行われているのか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>4 障がい者雇用について。平成 30 年 4 月 1 日以降、法定雇用率は、民間（従業員 45.5 人以上）は 2.2%、国・地方公共団体は 2.5%、都道府県等教育委員会は 2.4%となっている。</p> <p>(1) 平成 31 年度（令和元年度）栗原市の市長部局、教育委員会部局、第三セクター（事業所）のそれぞれの障がい者雇用人数、雇用率はどうか。</p> <p>(2) 令和 2 年度、市の障がい者雇用計画（雇用人数・雇用率）はどうか。</p>
		2 福祉政策	<p>1 介護タクシーについて。タクシー事業者等が運行する介護タクシーは、車イスに乗車のまま利用が可能である。</p> <p>(1) 市内の介護タクシーに対応した事業者数と運行台数はどうか。</p> <p>(2) 国・県・市から車両導入経費への助成支援策はどうか。</p> <p>(3) 利用料金への一部助成制度を検討すべきと考えるがどうか。</p> <p>2 公共交通のバリアフリー化について。</p> <p>(1) 障がい者・高齢者等の日常生活での移動の自由、利便性の向上を図るため、市が運行する広域路線、市内連携路線、乗合デマンド交通への車イスで利用可能となる低床バス、リフト付車両の導入など、バリアフリー化の促進を図るべきであると考えがどうか。</p> <p>3 介護用品支給事業について。市は、住民税非課税世帯で要介護者を在宅で介護している家族に対し、介護保険の対象外である紙おむつ等に要する費用の一部を助成するため、介護用品給付券を交付している。</p> <p>(1) 平成 29 年度、30 年度の実績（利用者数、利用枚数、金額）はどうか。</p> <p>(2) 支援対象者は、全ての世帯と施設介護も含めるべきであるが、どうか。</p>
		3 公共施設政策	<p>1 「公民館整備基本構想（案）」について。整備スケジュール案では、一番早い若柳公民館は、平成 30 年下期に「検討委員会」が行われ、平成 31 年上期実施設計、下期住民説明会、平成 32 年建設工事、平成 33 年利用開始と示されている。</p> <p>(1) 若柳公民館の検討委員会での主な意見はどうか。</p> <p>(2) 特に候補地の抽出結果についての意見はどうか。</p> <p>2 金成公民館について。</p> <p>(1) 金成地区は、4 つの公民館を有している。金成公民館の整備計画は、どう検討されているか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			(2) 津久毛公民館は、築 53 年が経過し老朽化している。「津久毛コミュニティ推進協議会」の拠点施設として整備してはどうか。
		4 築館総合運動公園について	1 スポーツ施設のトイレの改修・改善について。利用者から衛生面の苦情・要望が寄せられている。(築館陸上競技場、築館野球場、築館B&G海洋センター体育館及びプールについて) (1) 上記スポーツ施設のトイレは、和式は洋式に、くみ取り方式は水洗化に改修・改善すべきであるが、どうか。 (2) バリアフリーに配慮した障がい者用トイレを設置すべきであるが、どうか。
8	1 番 佐藤 庄 喜	1 栗原ハートフル・フード・プロジェクト商談会等のトップセールスの重要性について	1 栗原市とJA新みやぎは今後の厳しい状況下に置かれようとも、しっかり連携したスケールメリットを生かす努力をすれば、未来運営にも期待できると思う。以下について伺う。 (1) 8月8日、栗原市とJA栗っこ地区本部により初めて栗原ハートフル・フード・プロジェクト商談会が行われ、秋保温泉組合、系列ホテル関係者に農畜産物、加工品をPRされた。 ① この商談会の規模等も含め、詳細な内容はどのようなものであったか。 ② 市長自ら率先して行うトップセールスのジャンルは多くなると思うが、各団体等と共同して実施する商談会はどのように考えているのか。 (2) 東京オリンピック、パラリンピック競技大会組織委員会の「選手団団長セミナー」で県内の自治体では栗原市のみの参加とある。練習場誘致ばかりでなく、栗原市の自然環境の豊かさ、農畜産物の豊富さもPRして頂いたのではないかと思う。 ① PR内容と参加者の反応は、どのようなものなのか。
		2 地域の宝「玉松」の一部倒壊による対策について	1 JA新みやぎ本店地内にあり、樹齢が古く姿が気品を備えている「玉松」は、地域住民に親しまれてきたが、遂に一部が折れてしまい至極残念でならない。以下について伺う。 (1) 玉松は、温暖化による異常気象、松くい虫の越冬数の増加、酸性雨等の自然の猛威にも耐えてきたと思う。松は名木になればなるほど徹底した管理を強いられる樹木と思う。 ① 玉松を守る会、地区民、JA新みやぎ等との対策の協議はどうだったのか。 ② 玉松のある緑が丘の草刈り、清掃等の地面の管理、殺菌剤、殺虫剤等の実施はどうだったのか。

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>③ 令和元年度一般会計補正予算(第2号)の中で、歳出2款1項5目19節の旧玉沢小学校屋外環境整備事業負担金2,869万円とあるが、折れた松の撤去費も算入されているのか。また、今後一年は、どのようなスケジュールで対応策を考えているのか伺う。</p>
		3 宮城産和牛のDNA不一致に関し情報交換、共有、対策等について	<p>1 獣医師が人工交配した県産和牛のDNA不一致は30頭まで拡大した。県は相談窓口を設け、情報提供により業務適正化と不安払拭を図ることとした。更に再発防止に向け、家畜人工授精業務の適正化に関する実施要領を制定することとした。以下について伺う。</p> <p>(1) 昨年10月、DNA不一致の和牛が判明し、検査により7月、8月と頻りに発表されてきた。市としての対応、対策のため、宮城県全農県本部、栗っこ地区本部等と情報交換、共有はいつの段階より把握されてきたのか。</p> <p>(2) 栗原市内には、父牛のDNA不一致の和牛は現在存在しているのか。または、10年以上見抜けない事件でもあったので、過去には書類上存在していたのか。</p> <p>(3) 栗原市にも生産者も含め、市民より照会、相談は何件あったのか。あれば、その内容について対応策はどのようにされたのか。</p>
		4 本庁南側に位置する防災倉庫の活用状況について	<p>1 災害時には特に高齢者を地域で見守る活動強化が必要になってくると思う。備えは十分すぎるほど用意すべきである。以下について伺う。</p> <p>(1) 本庁南側の防災倉庫の利用状況に関し、倉庫許容量の何割ほど利用中なのか。また、その内容一覧はどうか。</p> <p>(2) 常時、市民何人分の飲食料等をストックしているのか。</p> <p>(3) 災害発生後、主に援助物資、防災協定業者からの物資等の格納にも利用するのか。</p> <p>(4) 物資の入替えなどに関する倉庫のチェックは、年何回行われているか。</p>
9	5番 佐藤 範 男	1 「(仮称)市道栗原辻前線」整備の最終決断を	<p>1 栗原北部エリアの東西軸の幹線道路として、現在、工事中の「市道辻前遠堀線」と、国道4号までを連結する「(仮称)市道栗原辻前線」の一体的な道路網の整備は、市の中核機能地域と結び、市民の防災・減災や日常生活の維持などの視点からも、欠くべからざる重要な事業である。私はこれまで、平成26年6月と平成29年12月の2回にわたり市議会定例会の一般質問で、当該道路網の整備事業の早期着手を喚起してきたが、近年、遅々として進捗していない。そこで、以下、質問する。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(1) 平成 26 年 6 月の市長答弁で、これまでの歴史的な経緯を踏まえ、「市道辻前遠堀線」を先行し、「(仮称)市道栗原辻前線」はその後に着手するとの言質があった。現市長も同様の方針であるようだが、「市道辻前遠堀線」整備事業の工事の進捗状況を、事業期毎に、区間と期間、計画と実績(予定)を伺う。</p> <p>(2) 大幅に遅延しているのは、第 2 期事業である。地権者との用地取得の協議に、不測の日数を要しているとの前回の答弁であったが、その後、進展はあったのか。</p> <p>(3) 第 3 期事業は、第 1 期事業の東側起点から国道 457 号南郷八升までだが、用地買収は完了したのか。完了していれば、第 2 期事業の完成を待たず、着手すべきと考えるが、どうか。</p> <p>(4) 「(仮称)市道栗原辻前線」のうち、国道 457 号南郷八升から「県道栗駒岩出山線」までの区間は、現在、農道であるようだが、路線名と延長はいくらか。</p> <p>(5) この農道が敷設されているエリアは、現在、県営ほ場整備事業「稲屋敷・袋地区」の受益地である。当該ほ場整備事業の計画概要と進捗状況を伺う。</p> <p>(6) この農道の幅員は狭隘なので、当該ほ場整備事業で道路拡幅用地を確保すべきと考えるが、面工事前に関係者と合意する必要があるが、どうなっているのか。</p> <p>(7) 「(仮称)市道栗原辻前線」については、平成 28 年度までの市総合計画実施計画に、「公益公共施設を接続する道路整備・市道栗原辻前線道路整備事業」と掲載されていたが、「市道辻前遠堀線」の遅延などにより枠外となり、かろうじて、市過疎地域自立促進計画で、「3 交通通信体系の整備、情報化及び地域間交流の促進」の中に掲載されるのみである。そこで、「(仮称)市道栗原辻前線」整備計画から、県営ほ場整備区域の農道区間について先行させ、当該ほ場整備の面工事期間と一体となった整備を行うべきと考えるが、いかがか、伺う。</p> <p>(8) 「(仮称)市道栗原辻前線」の東側である国道 4 号への接続であるが、平成 29 年 12 月定例会での市長答弁では、「5 ルートを検討中で、ルートへの決定は現段階では示せない」とのことだったが、今日の段階ではどのように検討したのか、伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(9) 来年の令和 2 年度の一般会計当初予算が、市長の今任期中最後の政策予算の編成となる。「(仮称)市道栗原辻前線」の整備については、現段階が市長判断のタイムリミットと考える。市民の待望久しい当該市道の整備について、来年度の当初予算編成まで、明確な指針を示すよう、市長の英断を求める。</p>
10	4番 佐藤千昭	1 これまでの一般質問、市民の声から再度聞く	<p>1 花山ダムについて。ダムに大量の土砂、上流からの流木が堆積している。景観的によくない。貯水量も大変少なくなり、ダムの機能も低下していると思う。</p> <p>(1) ダム建設(竣工)からすでに60年以上の年月が過ぎている。現在の貯水量をどのように捉えているのか。</p> <p>(2) ダム内の土砂・流木の堆積物除去について、県に対してどのような要請をしてくれているのか。その経過を伺いたい。</p> <p>(3) ダム河川内に立ち木が繁茂してきている。伐採処分について現地調査をされ、県に要請してほしい。</p> <p>(4) ダムに架橋されている座主橋の塗装がはがれさびている。景観上非常に良くない。塗装について強力に県に要請してほしい。</p> <p>(5) 座主のダム側の石垣に空間がみられる。調査のうえ対応されたい。</p> <p>(6) 外来魚の調査と駆除について対応されたい。</p> <p>2 国道398号の整備について。新市になってからは、通年通行を目指して要望活動をしてきた。しかし、現在通年通行中の区域にも未整備で今後早急に整備を望んでいる区域が残っている。</p> <p>(1) 本沢浅布地区の未改良地区約1kmの改良整備については、どのようになっているのか。</p> <p>(2) 浅布地区の地権者は何人で、どのような協議をしているのか。</p> <p>(3) 浅布地区の改良整備について、県にどのように要請しているのか。</p> <p>(4) 花山小学校下からいっぶく公園までの立ち木伐採と歩道の整備を県に要請して欲しい。</p> <p>3 栗原市地域公共交通の再編について。本年より再編を行い、市バスの運行をしている。市内利用者宅から地区中心部まで300円運行する「乗合デマンド交通」と旧町村を横断する「市内連携路線」、バスで一関市と大崎市をつなぐ「広域路線」は100円で市民の足を確保することとしている。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(1) 5 カ月を経過している。利用者の実態はどうなっているか。</p> <p>(2) 利用者の声を聞きながら定期的に見直しすることになっているが、現在までの市民の声を伺いたい。</p> <p>(3) 見直す次期はいつ頃を想定しているのか。</p> <p>(4) 利用負担金の軽減対象者はどのような人か。</p> <p>4 有害鳥獣対策について。中山間地域を中心にイノシシやクマの出没情報が非常に多い。また、農作物の被害も年々増加傾向にある。農家では被害防止対策をしているが、個人では手に負えず、大きな問題となっている。</p> <p>(1) 鳥獣被害防止計画の概要を伺う。</p> <p>(2) 鳥獣被害対策実施隊が県内では高齢化していると聞くが、市の構成員(隊員)はどうなっているか。</p> <p>(3) 市内農家に対して被害を防ぐために指導していることがあれば伺う。</p> <p>(4) 市所有の箱ワナ、くくりワナの数と過去 3 年の捕獲実績を伺う。</p> <p>(5) 電気柵を設置する農家が多くなっている。数量と延長を伺う。</p> <p>(6) イノシシの捕獲が多くなっている。処分場の検討をすべきと思うがどうか。</p> <p>(7) イノシシ肉のジビエなど活用法も検討すべきと思うがどうか。</p> <p>5 平成 31 年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査について。小学校 6 学年及び中学校 3 学年の全児童・生徒を対象とした悉皆方式により調査を実施した。</p> <p>(1) この調査は、いつからどのような目的で始めたのか。</p> <p>(2) この調査結果、市の小中学生の成績はどうであったのか。</p> <p>(3) この調査の結果を見て教育委員会の所感を伺う。</p> <p>(4) 学力向上に向けてどのような取り組みをしているのか伺う。</p>
1 1	17 番 菅 原 勇 喜	1 消費税 10% 増税について	<p>1 今からでも国会を開会し、増税中止を行うべきと考えるが、市長の見解とその理由を明らかにされたい。</p> <p>2 ポイント還元を実施する場合、登録申請し、審査を通過する必要がある。栗原市内の店舗のうち、対象店舗数、申請した店舗数、審査を通過した店舗数はそれぞれいくらか。商工会ごとに明らかにされたい。カード会社に支払う手数料はいくらになるのか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>3 複数税率対応のレジの普及状況はどうか。</p> <p>4 食料品は軽減税率対象であり、米をはじめとして8%であるが手数料は10%となる。資材関係も10%であり、農家所得は確実に減収となる。市長の見解はどうか。</p> <p>5 プレミアム商品券の取り扱い場所はいかなる理由で決定したのか。若柳金成商工会は、以前、取り扱い場所の指定を受けていたのに、今回は希望してもかなわなかったと聞くが、その理由は。</p>
		2 財政運営と中核機能整備事業について	<p>1 市政懇談会において栗原市は、普通交付税の合併算定替えて毎年度28億円の減少が見込まれ、財政調整基金も4年でなくなるとの説明を行った。子育て応援医療費助成事業を始め、市内外から評価されている事業は引き続き継続、拡充する財政運営を求めるがどうか。</p> <p>2 生活道路の舗装や、側溝整備等市民からの要望事項と達成状況はどのようになっているか。</p> <p>3 公園整備予定地の不動産鑑定評価はいくらか。</p> <p>4 公園整備予定地の現況は農地であるが、どう評価するのか。</p> <p>5 市民が一堂に会する場所は市内至る所にある。あえて新たに10数億円をかけて公園を設ける理由は何か。また、具体的に何を行うイベントは何か。</p> <p>6 市民が一堂に会する最大のイベントは市民まつりで、今年もイオンスーパーセンター栗原志波姫店で開催され、43,000人の人々が楽しんだ。次年度以降もイオンで開催されるものと考えているがどうか。</p>
		3 栗原を駅伝のメッカに	<p>1 若柳にはハーフマラソンの公認コースがあり、今年も中学駅伝、高校駅伝、さらには恒例のハーフマラソン大会が開催される予定である。栗原市が駅伝、マラソンのメッカとなるよう引き続き、大会開催や支援を行うよう求めるがどうか。</p> <p>2 栗原市で開催されてきた高校駅伝宮城県大会は今年が最後で、来年は別会場で開催することになると、7月25日に行われた定例の若柳地区区長会の席上で宮城県高体連陸上競技専門部会委員長から発言があったと仄聞するが、その経緯はどうか。</p> <p>3 同大会には、栗原市が補助金30万円の外、トイレやテントの設営等に約300万円の経費が掛かり、さらには人的支援も大変であることから、他会場での開催を栗原市が高体連に申し入れていたと聞くが事実かどうか。</p> <p>4 夏休み中に、コース沿いの歩道で駅伝練習をしている生徒がいたが、その歩道は、縁石や路肩沿いに草が生い茂っている状況であった。せつかくのコースであり大会直前だけでなく常時、除草されることを求めるが、いかが対応されるか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
		4 圃場整備地内の道路舗装について	<p>1 市道南二又線は狭隘ながら舗装された市道で地域の幹線道路として利用されている。現在、圃場整備中だが圃場整備完了時には舗装が完了してほしいと地域住民は望んでいる。現状が舗装された市道であることから、当然そのように対応されるものと考えがいかがか。</p> <p>2 川北 2 期地区水田の基盤整備事業区域の農道の舗装について。基盤整備事業は平成 32 年度完了予定とのことなので、具体的なスケジュールはどのようになるのか示されたい。</p>
		5 河川、道路の除草対策について	<p>1 昨年 12 月議会で、宮城県に対し、意見書を可決し直接県に届けたが、平成 32 年度事業にはどのように反映される見込みか。</p> <p>2 迫川鉄橋付近からの左岸側は、当該地域の住民が年 4 回ほど草刈りを行い常ときれいにされている。河川愛護団体として認定されていると思うが、報酬はいかほどか。他団体と同じ基準か。東北本線下流の落堀川左岸堤防法面、本年度は一度も刈り払いが行われていないが、どのような対応をされるのか。</p> <p>3 市独自に除草機械を購入し、公園、河川堤防、道路法面等、常に整備されてはいかがか。</p>
		6 後期高齢者医療健康増進事業について	<p>1 長寿・健康増進講師派遣事業は平成 31 年度も予算化されているが、現在までの実施状況と参加者の感想はいかがか。</p> <p>2 涌谷町にあつては広域連合の健康増進事業として「認知症リスク調査・重症化予防事業」が平成 30 年度事業で実施されたが、大いに参考となる事業と考えられる。栗原市でも取り組まれてはいかがか。</p> <p>3 栗原市の健康診査受診状況は平成 30 年度健診対象者 13,485 人に対し、2,878 人の受診で受診率 21.3%である。受診率向上の取り組みを伺う。</p>
		7 新川サイフォン堆積土砂撤去と管理協定締結について	<p>1 新川サイフォンは、2003 年、2009 年の 2 回堆積土砂の撤去が宮城県により行われたが、その後は 10 年間実施されていない。早急にサイフォン内の状況調査を実施し堆積土砂を撤去するよう、宮城県に働きかけられたい。また、今後についても宮城県の責任で管理する管理協定を締結するよう、協議を直ちに始めることを求めるがいかがか。</p>
		8 和牛血統不一致牛問題について	<p>1 報道によれば、石巻市の男性獣医師によって人工交配され、存命する牛 258 頭の DNA 検査が終わり、30 頭の不一致が判明した。獣医師は「不注意や勘違い」と説明、県農政部長は「故意と思われても仕方ない」との見方を示した、とのことである。子牛生産農家、肥育農家に甚大な被害、影響を与える事犯だが、市長はどのようにとらえているか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>2 「不注意や勘違い」「故意」いずれの主張も具体的にどのようにして授精証明書の発行に至ったのか把握しているか。</p> <p>3 遺伝子不一致の影響は 52 頭の子、孫、ひ孫の世代に広がったとのことだが、栗原市内の子牛生産農家、肥育農家に具体的な影響はあったか。</p> <p>4 今後の対策として、子牛市場上場の際、事前に人気の高い種雄牛のDNA検査を実施するとかの方策をとることも一法と考えられるかいかか。</p>
1 2	16 番 三 浦 善 浩	1 がん検診、受診率の向上を!!	<p>1 これまでも何度か質問しているが、国民の 2 人に 1 人が発症し、3 人に 1 人が死亡すると云われている「がん」の早期発見の切り札である「がん検診」に関し、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 過去 3 年間の受診率の推移はどうなっているか。(肺がん、胃がん、大腸がん、乳がん、子宮がん等)</p> <p>(2) 受診率の向上にむけた取り組みはどうか。</p> <p>(3) 働く世代を対象として、子宮がんと乳がんを合わせた夜間の集団女性検診事業を導入してはどうか。</p>
		2 投票率アップに向けた取組みを	<p>1 政治に対する関心の低さ、それに伴う低投票率は、全国的な課題となっている。そこで、次の点について伺う。</p> <p>(1) 投票所やポスター掲示板を統廃合して集約した前後では、投票率はどう変化したか。</p> <p>(2) 市は、投票率アップに向けてどのような取組みをしているのか。</p> <p>(3) 投票率アップに向け、「共通投票所」や「異動投票所」の設置などを検討してはどうか。</p>
		3 どうする「キャリア・パスポート」	<p>1 文部科学省は、小中高校生が学習や学校生活の目標を設定し、達成度を自己評価する教材「キャリア・パスポート」を 2020 年 4 月から全国の小中高校で導入する方針を決めた。そこで、次の点について伺う。</p> <p>(1) このことを受けて、市はどう対応するのか。</p> <p>(2) どのような効果が期待できるか。また、どう変わっていくと思われるか。</p>
		4 「子ども食堂」立ち上げ支援を	<p>1 子どもの孤食を防ぎ、地域住民と触れ合う機会をつくることなどを狙いとした「子ども食堂」が全国で 3,700 カ所を超えた。自主学習の見守りやゲーム遊びを通じた交流を行うなど、子どもの居場所としても定着している。そこで、次の点について伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(1) 市内には、「子ども食堂」があるのか。</p> <p>(2) 子どもの居場所づくりにも貢献できる「子ども食堂」の運営や開設(立ち上げ)に携わろうとする市民や団体に対する支援を検討するべきではないか。</p>
13	14番 高橋 将	1 公的遊休資産の活用促進策について	<p>1 売却対象となっている旧宝来小学校の利用に関しては、これまでも民間から問い合わせがあるものの、未だ成立していない。不成立となっている理由の多くは、賃料や売買金額が高く折り合いがつかないというものであり、参入の妨げとなっている。活用されないマイナス資産を、活用されるプラスの資産にするため、民間企業などが、より活用しやすい整備をしていくべきではないかと考える。</p> <p>そこで、遊休資産の活用を進める上で、建物の現状と金額が不均衡であると考えられるものや、用途が公共性の高い場合などは、さらなる金額の緩和を行ってはどうか。これにより、民間利用されることで、維持管理のコスト削減、施設の魅力の最大化、新たなにぎわいの創出につながると考える。</p> <p>(1) 市の施設の売買金額と賃貸料の算出方式は。</p> <p>(2) 旧宝来小学校の閉校からこれまでの維持管理費はいくらか。</p> <p>(3) 金額の緩和を行うのはどうか。</p> <p>(4) 文部科学省「みんなの廃校プロジェクト」へ掲載し、活用促進してはどうか。</p>
		2 財政の今後の見通しは	<p>1 先日の市政懇談会では今後、栗原が迎える普通交付税の合併算定替えの段階的縮減や、財源の縮減に向けた事業見直し、公共施設の削減、補助金の見直しなど財政状況について説明があった。財政の今後の見通しについて質問する。</p> <p>(1) 第3次行政改革大綱の長期財政見通しによると平成33年には400億円程度の歳出規模に減少となるが、市民生活へはどのような影響が出るか。</p> <p>(2) 合併特例債の発行限度額と発行期限の今後の見込みは。</p> <p>(3) 合併特例債の発行済み額と残額はいくらか。</p> <p>(4) 公共施設等総合管理計画における更新費用の試算では、今後、現状規模の施設維持をした場合、平均して年に27.4億円の不足額が生じるとしている。目標としている延床面積50%の削減で不足額は解消されるか。</p> <p>(5) 公共施設最適化計画の第1期～第4期で期ごとに削減目標としている延床面積はどうなっているか。</p> <p>(6) 第1期で延床面積の削減に必要な費用は。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
14	2番 小野久一	1 補聴器に公的助成と検診での聴覚検査の実施を	<p>1 高齢化社会の日本には、加齢による難聴患者が約1千万人いると推計されているが、他の原因の聴覚障害を抱えている人も含めると当然もっと多くなる。栗原市の実態は把握しているか。</p> <p>2 難聴によりコミュニケーションがうまくいかなると家族や社会から孤立して、生活の質や生きる意欲まで低下してしまう。認知症の約8割は難聴の放置が背景にあるとも言われていることを市長は御存じか。</p> <p>3 難聴に早く対応することは、認知症やうつ病などへの進行を防ぎ、医療費を抑制する効果もある。しかしながら、補聴器は片方の耳で5万円～30万円と高価で簡単に購入できないのが実情である。国や市による公的助成を考えるべきと思うが、見解を伺う。</p> <p>4 難聴者の実態把握と対策を考えるためにも、市が実施している住民健診に聴覚検査を加えるべきと考えるがいかがか。</p>
		2 高齢者生きがい健康づくり等事業について	<p>1 9事業あるが利用実績などからみて、市としてどう評価されているか。この事業の周知方法はどうか。</p> <p>2 生きがい活動支援通所事業で使用されている「栗駒健康の里さんさんドリーム」には、冷房設備が無く35～36℃の中での活動が行なわれていたと聞かすが、承知しているか。他地区の冷暖房設備は、どのような状況か。</p> <p>3 利用される場所すべてに、冷暖房設備が必要でないか。</p>
		3 汚染牧草処理対策の進捗状況は	<p>1 汚染牧草堆肥処理施設の整備候補地に金成地区内民有地を提供するとの申し出があったと報告があったが、どう対応され、どのような結論になったか。</p> <p>2 金成地区での市政懇談会のなかで、最後の女性の質問に対して市長は、「堆肥化施設を造ることをどこでも嫌だとなったら焼却の道しかなくなるでしょう。」と言われたが、市長の心中には「最終的には焼却だ。」という思いがあるのか伺う。</p>
15	18番 佐藤文男	1 幼児園・保育園児すべての世帯の副食費の無償化を	<p>1 幼児教育・保育の“無償化”が、10月から実施予定であり幼稚園授業料や保育料は“無償化”になるが、給食の副食費は公的給付の対象から外され、所得階層や世帯により子どもが第何子かによっても変わってくる。栗原市の独自施策により国の施策より前進面はあるが、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 栗原市の独自施策による幼稚園・保育所等の第2子の同時入園者の人数と市の負担額はいくらか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(2) 独自施策を所得制限なく、すべての第1子まで拡大した場合の人数と市の負担額はいくらか。</p> <p>(3) 副食費の“無償化”をすべての世帯にすべきと思うがどうか。</p>
		2 鳥獣被害対策について	<p>1 鳥獣被害に、これといった抜本的な対策が取れないなか収穫の秋を迎えている。丹精こめて育てた農作物が、一夜にして鳥獣被害に遭うなど各方面から聞かれる。また、農作物被害だけでなく、人に危害を加えるおそれがある熊の目撃情報は毎日のように行政に寄せられ、注意喚起の安心安全メールも連日送信されている。今後の鳥獣被害対策と被害について伺う。</p> <p>(1) 最近の鳥獣被害の傾向と、被害をもたらす鳥獣の分布の状況はどうか。</p> <p>(2) 栗原市農作物有害獣被害防護設備設置事業補助金の申請件数と補助金額はいくらか。</p> <p>(3) 被害は収穫期に向かいさらに増えるものと思う。予算枠を超えた申請に対し、補正予算の対応をすべきと思うがどうか。</p> <p>(4) 防護設備には電機柵等の設置が有効と思うが、気配を感知して音や光を放つその他の機器なども補助事業の対象になるか。</p>
16	24番 佐々木 嘉 郎	1 市政懇談会から見えた課題について	<p>1 市政懇談会では、今までと違い確実な人口の大幅な減少、税収の漸減が示された。今後の課題として、財政調整基金の取りくずしで補填すると、平成29年度末基金残高109億8,907万円は4年で使い果たしてしまうと説明された。人口減少により税収や地方交付税などの歳入の減少が見込まれる一方、義務的経費は一定の水準で推移することが予測される。このため財政の硬直化が進み、市民サービスの低下が懸念されるというものだった。これらのことはもっと広くオールくりはらの市民や各種団体、中核機能地域開発基本構想策定市民等検討会議などには、くわしく財政上の事情説明をすべきと思うが、どうなっているか。</p> <p>2 社人研によると、将来の栗原市の人口は2060年に29,335人と予測している。これに対し本市の計画では、若い世代が抱える結婚・出産・育児に対する不安を解消するとともに、安心して働き続けられる雇用の場を確保する。このことにより合計特殊出生率を間近の2025年に1.80、2035年には人口置換水準である2.07にするとしている。2060年の本市の目標は、社人研の29,335人、宮城県推計の33,046人に対し、35,036人と見込んでいる。今後の施策としては、これまでにない斬新な事業が求められていると思うので、以下聞きたい。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(1) 2025 年の本市合計特殊出生率 1.80 及び、2035 年の出生率を 2.07 に目標をおいているが、達成は可能か。現在の進捗状況は怎么样了。</p> <p>(2) 政務活動費を使って調査してきた岡山県津山市や大分県豊後高田市では、進学により都市部に転出した若者が地元に戻って就職してもらえるよう、奨学金返還を支援する制度を創設している。本市も同様の事業をとりいれてはどうか。</p> <p>(3) 東北運輸局資料によれば、東北地方では人口千人当たり 793 台の自動車保有されている。全国平均が 635 台であるので、全国を大きく上回っている。栗原市の千人当たり自動車保有台数は何台か。また、高齢運転者は何人いるか。</p> <p>(4) これらの高齢運転者がいずれ免許証を返納すると、通院や買い物に困難をきたすことが指摘されている。公設民営型の身近な買い物の駅（ステーション）、コンビニ型のごく小さな店舗を数多く設置してはどうか。</p> <p>(5) 医療が近くにないと人は住みにくい。3 病院 4 診療所のお世話になる人はこれからも多い。将来の医療体制が気にかかる。栗原市立病院の基本構想を策定すべきと考えるがどうか。</p>
17	12 番 三 塚 東	1 明日を待てない高齢のドライバー対策	<p>1 高齢ドライバーによる事故対策は、住み慣れた地域で暮らしていける条件を整えることを両輪で進めなければならない。「くらしたい栗原」の実現をより身近に感じることができるよう、政策の提言とともに市長の所信を聞く。</p> <p>(1) 本年 4 月から導入した乗り合いデマンドタクシーは、コースや拠点、時間が決められているというデメリットがある。高齢者の外出を促し、生きがいや健康づくりにつなげる施策として、高齢者や運転免許証を自主返納した交通弱者といわれる人を対象に、タクシー助成券の発行を考えるべきではないか。</p> <p>(2) 高齢ドライバーのブレーキとアクセルの踏み間違いによる事故対策として、急発進を防止する装置が開発され、自動車への後付け安全装置や内蔵型の自動車が市販されている。すでに、安全装置に対する補助事業の問題は市政懇談会でも取り上げられており、市長は前向きに調査・研究の考えを示したと感じた。高齢化が進む広い栗原市で生活するには、車は必要不可欠である。明日を待たずに安全装置に対する補助事業の施策を打ち出すべきである。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(3) 市は、増加傾向にある高齢者ドライバーの交通事故を防止するため、運転免許証の自主返納者に対する支援事業として「プラチナパス」を交付する事業を実施している。支所の窓口の有効期限を過ぎた運転免許証を持参して、「プラチナパス」の申請に来る高齢ドライバーがいると聞く。経過期間など一定の条件を付け、有効期限が過ぎた免許証の返納者に対しても「プラチナパス」を交付する対象にすることはできないか。</p>
		<p>2 台湾南投市との交流は防災も</p>	<p>1 市は、台湾南投市との国際交流協定を 2016 年 3 月に結び、すでに相互交流が始まっている。私は、これまでの交流事業に加え、市民間の交流を促進することも重要であると考え、政策の提言とともに市長の所信を聞く。</p> <p>(1) これまで実施してきた南投市との相互交流事業の総括をどのように捉えているのか。また、今後、市として事業展開をどのように計画しているのか。</p> <p>(2) これまでの実績と評価を踏まえ、今後も事業展開を考えるならば、互いに大地震により大きな被害を経験した過去の教訓を後世に伝えるとともに、減災を軸とした原点に立ち返り、市内の自主防災組織を構成する市民を対象にした「防災交流事業」を考えるべきと提案するがどうか。</p> <p>(3) 南投市とは 2 年に一度の相互交流となっている。行政が紡いだ縁を民間に波及させるために、まず、南投市からの観光客の誘客を促すことを考える必要がある。その一つの施策として、市は積極的に民泊や農泊を推進することから始め、栗原の魅力を台湾をはじめ中国や東南アジア諸国へと観光情報を発信し、インバウンド観光につなげるべきではないだろうか。</p>

※ この要旨は、各議員から提出された通告書の要点をまとめたものです。